

福島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	卒業研究	
科目基礎情報						
科目番号	0125		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 6		
開設学科	コミュニケーション情報学科 (H31年度開講分まで)		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	6		
教科書/教材	指導教員の指示による。					
担当教員	芥川 一則, 湯川 崇, 島村 浩, 松江 俊一, 田淵 義英, 杉山 武史, 若林 晃央, 安部 智博, 渡邊 エリカ					
到達目標						
受動的な学習態度ではなく、問題を自ら探して見つけよるような積極的かつ自発的な取組ができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。		
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)						
教育方法等						
概要	5年間の学習成果を基に、担当教員の指導により学生の興味と好ましい資質の伸展をはかり、探索的な学習を通じて問題解決能力を育成する。					
授業の進め方・方法	指導教員の指導にしたがい年間計画を立て、研究を行う。					
注意点	各テーマについて指導教員より指示がある。 卒業研究報告書を70%、プレゼンテーションを30% (中間報告10%・最終報告20%) で総合的に評価する。なお、プレゼンテーションは単位の要件とする。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		2週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		3週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		4週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		5週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		6週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		7週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		8週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
	2ndQ	9週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		10週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		11週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		12週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		13週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		14週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		15週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		16週				
後期	3rdQ	1週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		2週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		3週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		4週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		5週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		6週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		7週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		8週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
	4thQ	9週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		10週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		11週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		12週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		13週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		14週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		15週	指導教員の指示による	指導教員の指示による		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	4	

			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4		
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4		
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4		
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4		
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4		
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4		
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4		
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	4		
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	4		
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4		
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4		
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4		
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	4		
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4		
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4		
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	4		
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4		
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4		
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4		
			企業には社会的責任があることを認識している。	4		
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4		
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4		
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4		
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4		
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4		
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4		
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	4		
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4		
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4		
			工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4		
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4		
			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	4		
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	4		
			提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	4		
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	4		

評価割合

	報告書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	0	70
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30